結　晶

（社）埼玉県放射線技師会
副会長　橋　本　里　見

この会誌が皆様の手元に届くころは春真っ盛りだろう。が、今は寒い毎日が続いている。今朝、車窓にびっしりと霜が付いていた。この霜、じっと見ていると実にきれいだ。『霜』：空気と接触している物体の表面の温度が霜点よりも低くなると、空気中の水蒸気が昇華し、物体の表面から針状の氷の結晶として伸びる。この結晶のこと、あるいはこの現象自体を『霜』と言うそうだ。この結晶が出来るには核が必要である。この核の違いや気温・湿度等条件で様々な種類ができる、そしてそれらが組み合わさり十字状・六角柱・枝状・シダの葉状などに成長していくらしい。

核がなければ結晶とならない。組織においても同じだと感じる。核となる人物を中心にきれいな結晶を作っていく。10年ほど前から埼玉県放射線技師会（以下、本会）では独自の認定講習会を開催しているが、この講習会は各会員に現在の実力を把握していただき、県内の検査精度の標準化はもちろん、自分自身の学習目標と、職場教育の基準となる。また、去年からは地域読影セミナーを開催している。各会員それぞれの地域・病院の特色や形態により技師のおかれている状況は様々だと思う。だがその中で、技師が読影力を身につけることにより医師との信頼関係も生まれ、各自の病院の核となるよう成長してもらいたいと思っている。これらの講習会は他に執行部側の目的として、人材発掘するのに最適な講習会だと考えている。会員の中でモチベーションの高い積極的な人材を見つけ登用し理事、委員として別の能力を発揮していただくことで組織の継続を図ってきた。

水には0℃以下でも凍結しない『過冷却状態』があるらしい。しかし『過冷却状態』にある水に何らかの刺激を加えると、急速に凍りつく。組織が低体温になっていった時、ほんのちょっとの『きっかけ』で一気に崩壊に向かいかねない。一見平穏に動いているように見えているが、不満・ストレスが募っている場合も多いと思う。そして些細なことで一気に爆発しかねない。組織構築はここが難しい。逆にとらえると、動いていれば、常に刺激を与えていれば、『過冷却』とはならないのかもしれない。温度の高い空気はたくさんの水蒸気をためることができる。活発な組織ならたくさんの人材の活躍するキャパシティーがあるということである。

今年は、理事の改選がある。先日の選挙で小川会長の再選が決まり、今後も小川会長を核にして組織を構築していくわけだが、新しい人材を入れ、風通しの良い執行部人事を行うと思う。

会員の皆様には会誌を隅から隅まで読んでいただきたいが、時間が取れないのであれば少なくとも事業計画（前号に掲載）には目を通してほしい。本会の運営についてはマンネリ化してないか？低体温化していないか？をチェックしてほしい。現執行部は会員の皆様の大切な会費で事業を行っている認識をもって会運営をしてきた。理事改選に伴い新執行部にも現執行部の思いを伝えていき組織の継続を図ってもらいたい。いずれにしても、きれいな結晶ができるよう、そしてその結晶が手を結び様々なきれいな模様となるように、私も微力ながらその組織の構築に協力していきたい。

しかしながら朝、時間がない時のフロントガラスの霜とりは非常に厄介である・・・。